

# 大井九条の会

大井九条の会  
事務局連絡先  
83-2358 二上

## 11月3日の定例会では

学習では11月2日報道特集「選挙とメディアの役割」の一部を視聴しました。第2次安倍内閣以降、自民党のテレビ局に対する、報道公平要請や高市総務相（当時）の電波停止発言以降、メディアが自主規制してしまい、選挙報道が大幅に減った。今回議席を4倍化した国民民主党の玉木代表はメディアでの細切れの報道では真意が伝わらないとSNSを重視した。そして意外にも短い動画より党首討論など10分など長い動画の再生回数が多いということが分かったと述べています。番組では、識者のコメントとして、このようなことを放置すれば、テレビは民主主義の担い手を失うとの発言を紹介しています。

11月24日(日) 14時生誕学習センター2階  
平和への思いを語る会  
誘い合って  
ご参加ねがいます



生ましめんかな 生ましめんかな  
己が命捨つとも

これは、大井九条の会が今夏上演した原爆朗読劇「夏の雲は忘れない」の中の詩「生ましめんかな」（栗原貞子）の中の後半のフレーズである。「生ましめんかな」は、栗原さんが実話に基づいて書いた詩だという事だ。産婆さんの決死の行動は”If I must die, you must live”そのものであると私は思う。この詩も私の心に深く残って今でも諳んじている。  
二上光子

## If I must die



停戦の兆しが全く見えないウクライナやガザの戦場。心を痛めているが私には成す術がない。しかし今世界で何が起きていリファト・アライール  
るのか、現状をしっかりと見て、感じて想い考え、それを発信し続ける事はしている。でも、一体どれだけの事が私にはできているのだろうか、できるのだろうか・・・

或る日、視聴した番組（NHkスペシャル2024/10/13）で紹介された英語の一編の詩が心に響いた。ガザで昨年空爆で殺されたREFAAT ALAREER(上写真)の詩である。番組によると、彼は、パレスチナ人、ガザ・イスラム大学の教授で詩人。40代、6人の子どもの父親。ユダヤ人も公平な目で見続け講義をし続けてきた彼は、非人間性を言葉で訴え続けてきたが、2023年12月の空爆で殺された。希望を託した彼の子ども達の何人かも別の場所の空爆で殺されたそう。空爆の直前の10月に作られたというこの詩は70以上の言語に翻訳され世界を駆け巡っているそうだ。すでに読まれている方もいられるだろう。想いを交換したいものだ。全文を紹介する事はここでは紙面の関係上できないが、スマホでも調べることができる。是非多くの方に読んでいただきたいと思う。私は、次のフレーズが心に刻まれた。

If I must die,  
you must live  
to tell my story

(途中、略)  
If I must die  
let it bring hope  
let it be a tale  
you must live  
(あなたは生きなければいけない)  
と詠われている事に心打たれ励まされている。  
歴史を学んでいると、理不尽に、”must die”を強いられた人の多い事に愕然とし涙が出て来る。数多の命の犠牲の延長に今の社会の繁栄があり私を含む多くの人の幸福が成立している。”must die”を強いられた人のstoryをここで書きたい。想いを交換したいと思う。

罪をきる 彌陀のつるぎに かかる身の  
何か五つの 障りあるべき  
(意味：罪もなく斬られる我が身。それでもお慈悲ある彌陀の剣ならば、五つの罪業も断ち切られて成仏できるでしょう)  
これは、豊臣秀次が謀反の疑いをかけられ切腹させられた文禄4年（1595年）、連座の罪で秀次の妻妾そしてその子ども達、侍女までも30数人が京都の町中を引き回され三条河原で処刑されたが、その中の一人駒姫の辞世の句である。駒姫、15歳、妾になる事を強制され秀次にまだ目通りもないまま犠牲になった。

私は、駒姫のこの句を、友達の勧めで短歌を学び出した頃知った。自分や吾子達のこの年齢だった頃を思い浮かべ心に強く残った。今も、上手下手は関係なく短歌を作り続け、和歌の歴史を調べ続ける事を、細々とながら続けている原動力になっている。

かくて暗がりの地獄の底で  
新しい命は生まれた  
かくてあかつきを待たず産婆は  
血まみれのまま死んだ

日本国憲法 第二章 戦争の放棄  
第九条 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。  
第二項 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

次回定例会・12月8日(日) 14時  
・そつわ会館第2会議室

論議では、国民民主の、日米安保体制の強化、防衛産業の活性化など危険な政策が隠されているのではないかなどがでました。  
11月24日の集いの詳細について論議しました。またその後では戦時体験集Vに向けて、体験者から話を聴く活動を強めようと話し合いました。